

- 日時：令和7年2月9日（日）12:30～15:30
- 場所：農研機構「食と農の科学館」
- 参加者：20名（中学生1名、高校生18名、先生1名）
- 講演者：ムーンショット目標5  
日本典秀プロジェクトマネージャー（PM）  
世古智一、渋谷和樹、植原健人

■応募の背景（埼玉栄中学・高等学校より）：

部活動で子ども食堂を運営している。昨年は震災や豪雨など人間の努力を自然の猛威がいとも簡単に破壊する場面も目にし、循環型の食のシステム構築は喫緊の課題と感じている。先進の研究に触れ将来自分たちが担い手になる自覚を養う機会にしたい。

■概要：

日本PMから化学農薬を用いない新たな「害虫被害ゼロ農業」の未来像および技術開発について説明。具体的な事例として、餌となる害虫を長時間探索する天敵昆虫の選抜方法や、レーザー光による飛翔害虫の狙撃に成功したことを紹介（世古氏、渋谷氏）。農業害虫に接する機会がほとんどない生徒達ですが、質問の拳手が相次ぎ、関心の高さがうかがえました。

講演だけでなく、天敵昆虫の研究を進めている実験施設を訪れ、研究現場を身近に体験頂いたり、科学館の見学ツアーでは作物の新品種開発や機械化など農研機構の最新の研究成果にも触れて頂きました。

■交流会後の生徒の感想（抜粋）：

- ・国の政策や研究が私たちの日常生活と密接に結びついていると実感。普段あまり意識しない農業の課題を自分ごととし、日々の生活に反映したい。
- ・フードロスとは流通後の廃棄される食品を思い浮かべていたが、生産されるはずの15%もの作物が害虫により失われていることは衝撃だった。現状の害虫被害の規模を知り、将来に備えた早急な対策の必要性を痛感した。
- ・最先端の研究現場を間近に見学できる貴重な体験でした。（多数）



講演



研究現場見学



食と農の科学館見学ツアー

